

試聴会・訪問記掲載

上新電機オーディオ試聴会 (201912.15)

—アキュフェーズ新製品試聴会—

1. はじめに

上新電機日本橋1番館で開催された、アキュフェーズの新製品プリメインアンプの試聴会に行ってきました。

2. 使用機器

スピーカー：B&W 802D3・B&W 805D3

プリメインアンプ：アキュフェーズ E-800



プリメインアンプ：アキュフェーズ E-380



SACD/CD プレイヤー：アキュフェーズ DP-750



当日のセッティング

3. 試聴会の進行

試聴は E-800 と E-380 の開発の意図や技術的背景の説明を織り交ぜながら進行しました。これらについてはアキュフェーズのサイトを参照願います。

<https://www.accuphase.co.jp/model/e-800.html>

<https://www.accuphase.co.jp/model/e-380.html>

前半は、E-380 で B&W 805D3 を駆動し、後半は E-800 で B&W 802D3 を駆動させ、DP-750 による SACD と CD の再生およびオプションの DAC ボードを加えた E-380 および E-800 への PC からのファイル再生で試聴が行われました。

手始めにかけられたのは、神尾真由子とクルティシエフのデュオで、引き続き、アリス・紗良・オットーのショパンと女性コーラスのアカペラのボーカルでした。

いずれもクリーンで爽やかな音ですが、神尾真由子とクルティシエフは、生演奏を聴いており、もう少し艶と湿度感が欲しいところです。アリス・紗良・オットーも生演奏を聴いており、恐らくはスタンウェイであろうピアノの豪快な響きが欲しいところです。

さらに、チェロとピアノのデュオのピアソラ、ジャズ、ボーカル、DSD11.2MHzDSD のジャズと続きましたが、クリーンで整った音であるという印象は変わらず、こういった音楽を好まれる向きが、どう感じられたか、興味あるところです。

ここで E-800 への変更があり、オリンピックのファンファーレ、女性ボーカル、佐渡裕指揮のトーンキュストラのキャンディードと続きましたが、クリーンな印象はそのままに、駆動力が向上し、押出が良くなっています。トーンキュストラも生演奏を聴いていますが、よく整理された音ではありますが、実際の生の音はもっと厚みと深みがあります。

ここでライナー・キュップフェルのヴァイオリンと福田進のギターのデュオでパガニーニが再生されましたが、キュップフェルの艶のあるストラディヴァリウスとは、似ても似つかぬ無機的な音がしていました。

さらにジャズトリオをジャズピアノと続きましたが、印象は変わりません。

次の塚谷水無子のオルガンですが、いささか、こぢんまりとまとまった音で、もう少しシュニットガーのオルガンの豪壮、荘厳な響きがほしいところです。

最後はオペラのアリアでしたが、やはりオペラらしいスケール感が欲しいところです。

4. まとめ

いかにもアキュフェーズらしい、クリーンで整った音が支配的で、そのこと自体は好感が持てます。クラシックについていえば、演奏会の生音を聴く機会が多いので、いきおい厳しい評価になりがちですが、いささか整理されすぎた印象で、オーケストラやオペラの熱っぽい音、ピアノやオルガンの豪壮な音、ヴァイオリンやチェロの艶など、千変万化するクラシックの音の饗宴に踏み込んでほしい印象でした。

以上